埋伏齒齒冠部ニ現レタル白堊質ニ就テ

Über das am Kronenteil eines retimertes Zahnes
beobachtete Zementgewebe.

Von Dr. S. Morita

大阪帝國大學醫學部齒科學教室(指導弓倉博士)

森 田 貞 雄

目 次

1. 緒 言	1. 考 按
2. 例 症	1. 結 論

緒 言

動物ノ齒牙特ニ「モルモット」, 兎ノ白齒々冠ニハ白堊質ガ一定ノ關係ヲ齒冠迄延長附著セルモ人類齒牙ニ於テハ齒根部ノミニシテ齒冠部ニハ是ヲ認メズ。

然レドモ埋伏齒牙ニ於テハ甚ダ稀ニ之ヲ見ル事アリ。初メテ此ノ事ニ關シテ述ベタルハ Zuckerkandl 氏(1885年)ニシテ同氏ハ埋伏齒牙ノ齒冠部琺瑯質ノ呼吸及ビ同所ノ骨(白堊質?)ノ沈著ニ就テ述ベタリ。

Kantrowicz 氏(1910年)ハ埋伏上顎犬齒々顎部ヨリ齒冠ニ向ツテ同様ノ變化ヲ認メ Kotanyi 氏(1924年)ハ埋伏上顎智齒々冠部ニ Bauer 氏(1926年)ハ同ク上顎犬齒々冠部琺瑯質表面ニ何レモ白堊質ノ新生沈著セルヲ報告セリ。

Kotanyie 氏(1931年)ハ再ビ埋伏智齒々冠部ニ白堊質及ビ骨ノ沈著セル例ヲ Lukomsky 氏(1931年)ハ埋伏下顎第一大白齒々冠部琺瑯質及ビ象牙質ノ吸收ト其ノ部ニ於ケル骨ノ新生ニ就テ論及セルアリ。

余ハ偶々「埋伏齒牙齒髓ノ研究」(昭和6年度口腔病學會ニ於テ發表)ニ於テ上顎中切齒埋伏齒牙ニ於テ琺瑯質及ビ象牙質ヲ深く吸收シ其ノ吸收ニ象牙質表面ニ第二次白堊質ノ新生附與サレタル例ニ遭遇セリ, ヨツテ此ニ報告ス。

例 症

患者 XXXXXXXXXX 24 歳 男

生來強健ニシテ著患ヲ知ラズ。一般榮養狀態可良。

口腔内及ビ患部附近ノ X 線所見

口腔内ノ衛生狀態ハ中等ニシテ齲蝕ニ罹レル齒牙ナシ。1ハ缺除シ2ハ甚シク正中線ニ接近シ1ハ近心内方ニ傾斜シ2ハ近心外方ニ傾斜ス。上唇携帶附著部ノ右側ニ於テ發赤腫脹ヲ來シ其ノ中心部ハ僅カニ潰瘍ヲ呈シ内部ヲ診査スルニ齒牙様硬固

物質ニ觸ル。

依テ其ノ部ヲX線寫眞ニヨリテ見ルニ圖ノ如ク1ハ其ノ切端ヲ1ノ齒根長軸ト平行ニ對シ遠心隅角部一部露出シ其ノ周圍部ニ潰瘍ニ形成セラレタルヲ容易ニ認識セリ。齒根ハ2ノ齒根ニ對シ彎曲セリ。切端中央部ニ於テ暗影ヲ認ム。

埋伏齒牙ノ肉眼の所見

齒牙ハ大約上顎中切齒ノ外形ヲ現スモ齒根 $\frac{1}{3}$ ノ部分ニ於テ「く」形ニ舌近心ニ向ツテ彎曲ス。

琺瑯質ハ一般ニ光澤少ナク切端中央發育葉部ニ相當スル部ニ於テハ齶蝕様ノ褐色ヲ呈セル窩洞アリ、其ノ内部ハ褐色様物質ヲ以テ滿サレ探針ニテ診査スルニ窩洞中央部ニ於テハ約2 mmノ深サヲ有シ齒髓ニ通セズ。

窩洞ニ相當セル唇、口蓋兩面ニ於テハ琺瑯質面ヨリ窩洞ノ存在ヲ容易ニ透視シ得。

顯微鏡の所見

染色ハ「ヘマトキシリン、エオザン」及ビ「チオニン」兩染色ヲ行フ。

琺瑯質ハ脱灰液ニヨリテ殆ド消失ス。

象牙質ハ著變ヲ見ザルモ齒髓ニ於テハ齒髓頂部即チ窩洞直下部ニ於テハ多量ノ第二次象牙質(不正象牙質)ノ形成アリ更ニ根管壁ニ於テモ同様形成セラル、ヲ見ル。故ニ齒髓腔ハ狹窄サル。造齒細胞ハ極度ニ萎縮或ハ消失シ齒髓ハ根端一部分ヲ除ク他網様變性ヲナシ所々大ナル空胞ヲ形成ス。

此處ニ興味アルハ切端部ニ存在セル齶蝕様實質缺損ニシテ以下其ノ所見ヲ述ブベシ。

齒冠齶蝕様窩洞ノ内部ハ堆狀物質ヲ以テ滿サレ窩壁ハ底ノ一部分ヲ除ク外白堊質ヲ以テ被覆セラレ其ノ底面ハ凹凸不平ナリ。而シテ白堊質ニヨリ裏裝セラレザル窩底ト齒髓組織トノ間ノ象牙質ハ吸收狀態ノ痕跡ヲ呈シ齒細管ハ他部ニ比シ擴張ヲ見ミ「ヘマトキシリン」ニヨリテ濃染ス。

窩壁ヲナセル白堊質ヲ精査スルニ窩壁ノ上部 $\frac{1}{2}$ ノ部分ニ於テハ3條乃至4條ノ層板ヲ有シ其ノ厚徑大ナルモ底部ニ於テハ層板ヲ有セズ。一部窩壁白堊質ハ象牙質内ニ

深く彎曲ヲ呈シテ侵入セル爲其ノ中央部象牙質ハ游離セルカノ觀ヲ示ス。

白堊質内ニ存在セル白堊質小體ハ層板狀ヲ呈セル白堊質層中ニ於テハ圓錐形ヲ呈シ其ノ突起即チ Saft Lücken ハ常ニ外方ニ向フモ象牙質トノ境界部ニアリテハ橢圓形或ハ圓形ヲ呈シ突起ハ周圍ヨリ放線狀ニ出シ骨小體ニ類似ス。象牙質及ビ新生白堊質ノ境界ハ甚ダ漠然トシテ或ル部ニ於テハ白堊質小體ノ突起ト象牙質齒細管ノ突起トガ互ニ吻合セルカノ觀ヲ示ス部分アリ。

窩洞上部内側ノ白堊質ニヨリテ被覆セラレザル象牙質ノ一部分ハ据子狀ヲ呈シ其ノ陷凹部ニ細胞狀物質ヲ認ム。

根端部「く」字狀ニ彎曲セル部ニ於テハ第二次白堊質ノ新生ヲ見、數條ノ層板ヲ有ス。

根端孔近クニ於テハ一部

原成白堊質及ビ象牙質ヲ吸收シ第二次白堊質ト置換セラレ從ツテ髓腔壁ノ一部ヲナス事アリ。

考 按

第 一 圖

齒冠頂部ヨリ象牙質ヲ深く吸收シ其ノ表面ニ白堊質ノ新生附與サレタル圖, S.Z 新生第二次白堊質, D₁ 遊離セル象牙質, D₂ 象牙質, S.D 齒髓腔内ニ於ケル第二次象牙質

第 二 圖

第一圖 D₁ ノ部ヲ擴大セル圖

第 三 圖

第二圖 D₁ノ上部ヲ更ニ擴大セル圖 Z.K 白堊質小體

第 四 圖

吸收窩洞底ト齒髓腔トノ部ヲ來ス

埋伏齒牙ニ於テ白堊質或ハ骨ノ齒冠部沈著ニ對スル成因トシテハツッケルカンドル氏ハビルロード氏ノ說ニ從ヒ埋伏齒牙ヲ顎骨内ニ於ケル一種ノ異物ト考ヘ埋伏齒牙ノ硬組織中ニ骨ノ進入ニヨリテ琺瑯質或ハ象牙質ノ吸收ヲ來シ其ノ表面ニ骨ノ沈著ヲ見ルト云フ。

コタニ氏ハ巨態細胞ヲ有スル齒冠部周圍結締組織ニヨリテ琺瑯質ノ吸收ヲ來シ其ノ表面ニ白堊質ガ沈著スト。又バウエル氏ハ琺瑯質ニ原成白堊質ノ沈著スルハ齒根膜結締組織中ニアル造白堊質細胞ガ外琺瑯上皮ヲ破壞シテ琺瑯質表面ニ白堊質ノ形成ヲ行フカ或ハ外琺瑯上皮ヲ造白堊質ガ侵襲破壞シテ据子狀ニ吸收サレタル琺瑯質ノ表面ニ沈著サルモノナリトセリ。

本例ニ於テハ前述ノ如ク

1ノ切端ハ 1ノ齒根表

面ニ接近シ琺瑯上皮ハ其ノ部ニ起レル壓迫ニヨリ萎縮或ハ消失ヲ來シ齒根膜結締組織中ニ存在セル巨態細胞ニヨリ琺瑯質及ビ象牙質ノ吸收ヲ來シ其ノ後ニ於テ 1ノ齒根膜或ハ齒囊周圍結締組織ノ進入ヲ來シ同ジク「メソデルマール」ナル造白堊質細胞ヲ形成シ之ニヨリテ其ノ表面ニ第二次白堊質ノ新生沈著セルモノト考フルヲ最モ妥當ト信ズ。

窩底一部白堊質ノ存在セザル部分ノ直下ノ象牙質齒細管ノ擴張ヲ來セルハ其ノ部ノ象牙質吸收時ニ於テ窩洞内組織ノ化膿轉機ニヨリテ生ジタル酸產生物ノ齒細管進入ニヨルモノト思ハル。又齒髓齒冠頂部ニ新生セル第二次象牙質及び象牙質吸收時ニ於ケル齒髓ニ對スル刺戟ニヨリテ生ジタルモノナラント思惟ス。

結 論

1. 埋伏齒ニ於テハ齒冠部吸收アルモノヲ認ム。
2. 本例ニ於テハ其ノ吸收部ニ白堊質ノ添加セラレタルモノナリ。
3. 齒冠部吸收ハ齒周圍結締織ヨリ起リシ巨大細胞 Odontoklasten ニヨルモノナリ。
4. 此處ニ造白堊質細胞ヲ發生シ吸收面ニ第二次白堊質ノ新生添加ヲ來セリ。
5. 本例ニ於ケル新生白堊質ハ齒髓組織ノ一防禦裝置ト考ヘラル。

擱筆スルニ當リ恩師弓倉博士ノ御懇篤ナル御教示ヲ深謝シ併セテ山上學士ノ御助言ヲ謝ス。

文 獻

- 1) W. D. Miller, Pathologische Processe au einem retinierten Zahne, D. M. f. Z. 1901.
- 2) Kantrowicz, Histologische Befund an retinierten Zähnen. D. M. f. Z. 1910.
- 3) Kotanyie, Histologische Befund an retinierten Zähnen. Z. Stom, 1924.
- 4) Bauer, Zur Kenntnis der Zementauflagerung an Schmelz retinierter Zähne. Z. Stoma. 1926.
- 5) J. Lukomsky, Befund an retinierten Zahn. D. M. f. Z. 1931.
- 6) Kotanyi, Histologische Befund an einem retinierten Milchmolaren und einem retinierten Weisheitszahn. Z. Stom. 1931.

興味アル對側性ニ萌出セル過剩齒二例

Die interessante zwei Fälle von symmetrisch
druchgebrochenen überzähligen Zähne.
Von Dr. S. Okino und Dr. D. Mitoma.

九州齒科醫學專門學校

沖 野 節 三

三 苫 傳 三 郎

Sternfeld. Mayrhofer 等ハ一乃至數齒ガ人類齒牙ノ定數ヲ越エテ多數生ジタル時ニ其ノ定數以外ノ齒牙ヲ過剩齒 (überzählige Zähne) トシテ指摘シタリ、然シ人類齒牙ノ定數即チ乳齒列ノ 20 本、永久齒列ノ 32 本ハ外傷、拔齒又ハ埋伏ニヨツテ過剩齒